

雄阿寒岳の火山活動解説資料（平成 30 年 7 月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～4）

17～18日に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、北西斜面に弱い地熱域を確認しました。北西斜面で測定した噴気温度は66℃で、前回（1991年7月、69℃）と同程度でした。

30日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。赤外熱映像装置による観測で北西斜面の弱い地熱域を確認しましたが、これまでと比較して地熱域の状況に変化はみられませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 雄阿寒岳 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

青矢印は上空からの撮影、赤矢印は地上からの撮影を示します。

赤丸はこれまで確認されている地熱域を示します。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 29 情複、第 958 号）。

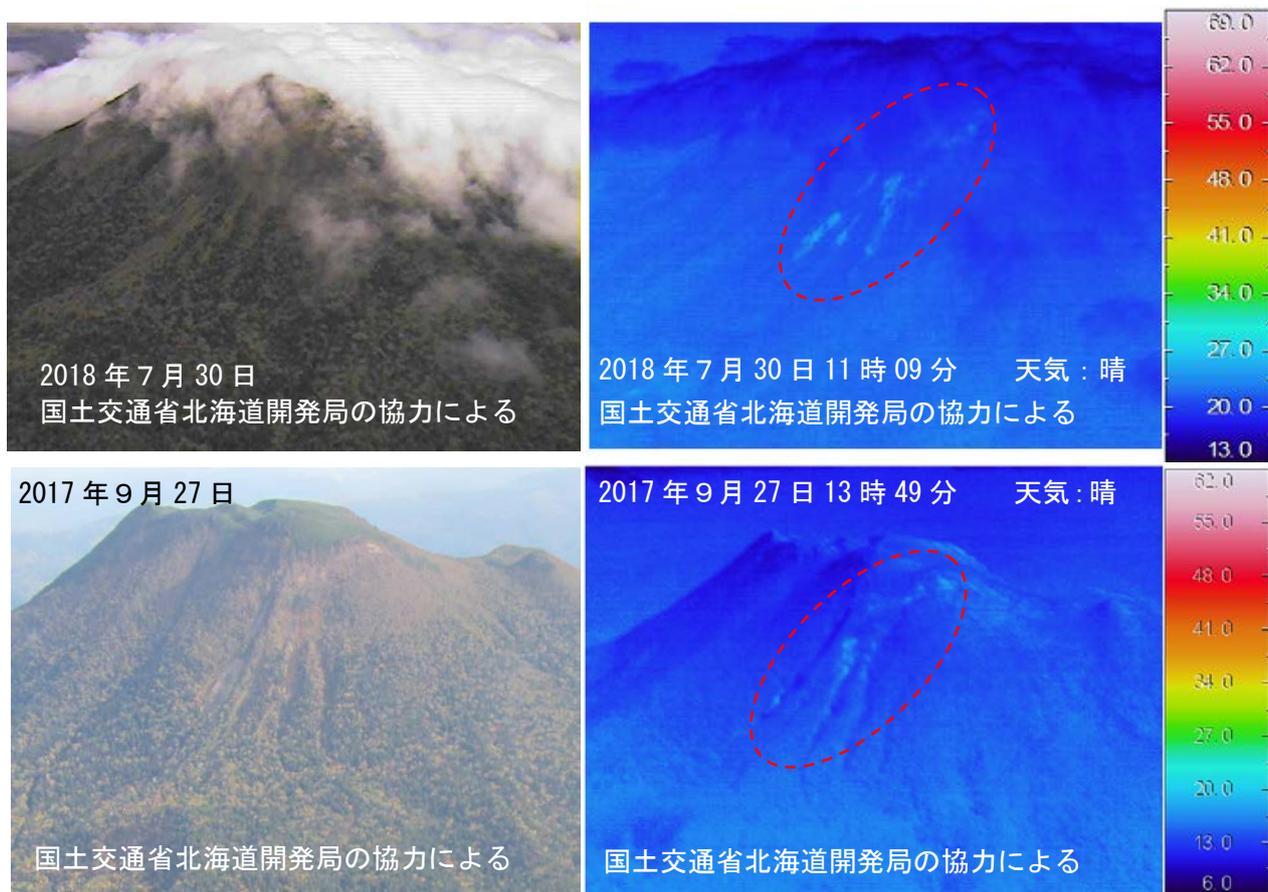


図2 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面の地表面温度分布の比較

北西側上空（図1の①）から撮影

- ・ 雲のため一部見えない場所がありました。
- ・ 確認できた範囲内では、地熱域の状況（赤い破線部）に変化は認められませんでした。

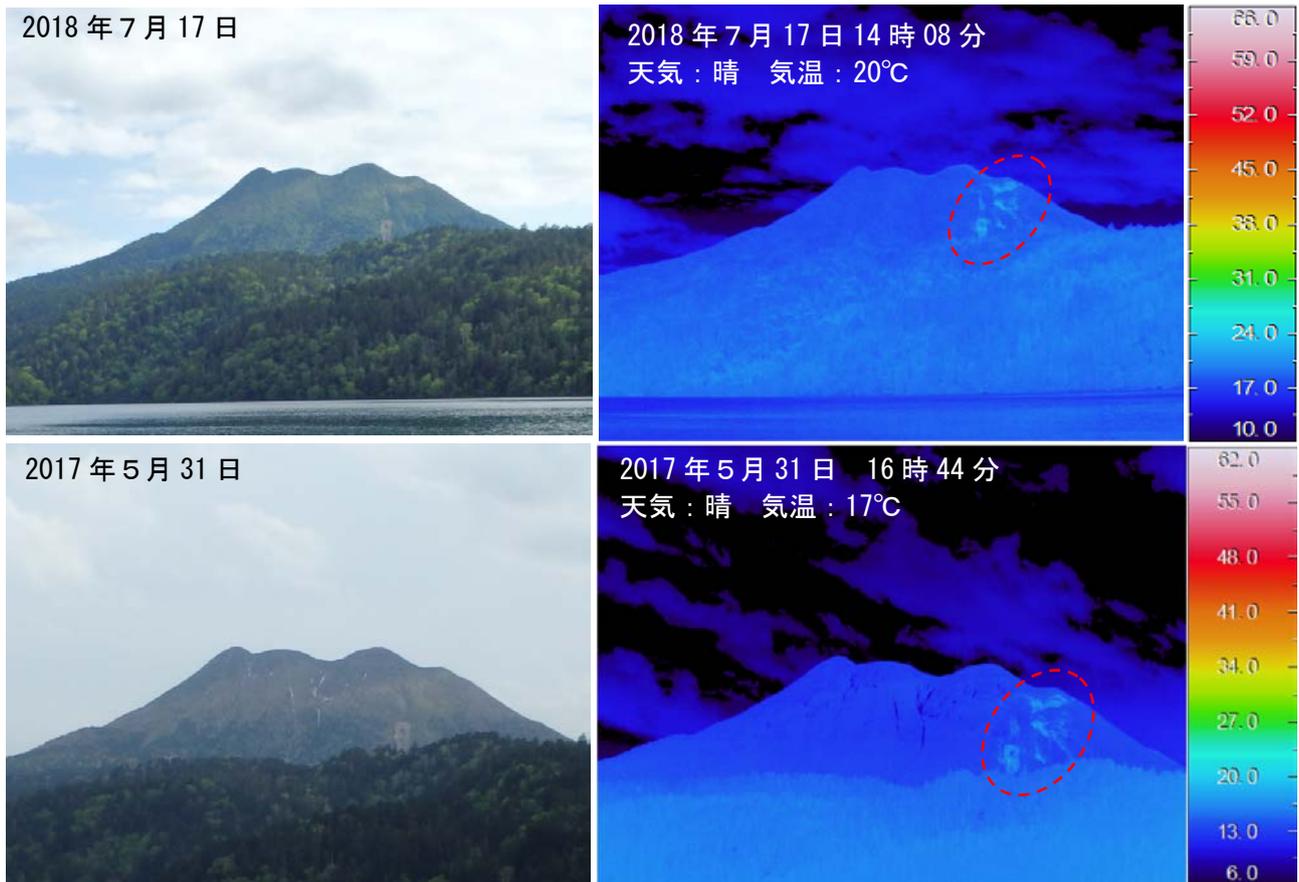


図3 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面の地表面温度分布の比較

北側（図1の②）から撮影

- ・前回（2017年5月31日）と比較して、地熱域の状況（赤い破線部）に変化は認められませんでした。

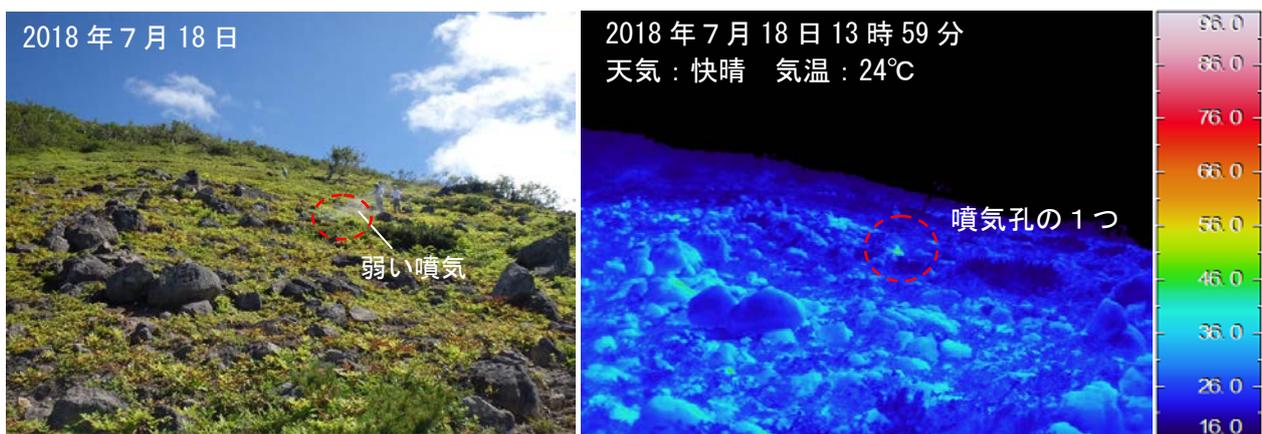


図4 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面噴気孔群の地表面温度分布の比較

北側（図1の③）から撮影

- ・北西斜面には複数の噴気孔がみられました。
- ・日射の影響は大きいものの、噴気に対応した熱域が認められました（赤い破線部）。
- ・赤い破線部の噴気温度は66℃で、前回（1991年7月、69℃）と同程度でした。